

ようやく寒さも和らぎ、麻機でも少しずつ春の訪れを感じられるようになりました。

湿地再生・植生管理部会では、3月10日（日）に麻機遊水地自然再生シンポジウム『麻機の自然を市民の宝に』を開催し、講演とパネルディスカッションを行いました。

3月11日（月）には、第5回企画運営委員会が開催され、協議会の組織体制や、自然再生を行っていく上でのルール作りについて話し合いましたので、ご報告します。



『麻機の自然を市民の宝に ～オニバス自生地の北限 新潟市福島潟に学ぶ～』

2013年3月10日（日） 13：00～16：00

静岡県男女共同参画センター あざれあ 大会議室

講師：神戸大学大学院理学研究科 角野康郎教授

水の駅「ビュー福島潟」レンジャー 小林博隆氏

NPO法人ねっとわーく福島潟 松木保氏

参加者：85名（内スタッフ8名）

福島潟のお話では、「里潟」という言葉の説明がありました。福島潟は、里地里山のように人との生業により維持されてきた環境であり、福島潟を「里潟」として後世に伝えて行きたいとのことでした。また、NPO法人ねっとわーく福島潟は、いろいろな団体がゆるいつながりによって形成している団体とのことでした。

福島潟の事例を勉強し、本自然再生協議会においても、各団体の活動を尊重しつつ協力して自然再生事業が実施できるよう頑張りましょう。

シンポジウムには、市内外から多くの方が参加していただきました。今回の講話やパネルディスカッションを通じ、参加者の皆さんは、麻機遊水地の重要性、近くにいることで気づかない『身近にあるお宝』『そのお宝を守り、育てて、後世に残していかなければならない』ということを確認して頂けたのではないのでしょうか。

しかし、まだまだ、多くの市民には知られていません。みんなで、市民のお宝、麻機の自然を広めていきましょう。

第5回企画運営委員会

2013年3月11日（月） 18：30～20：30

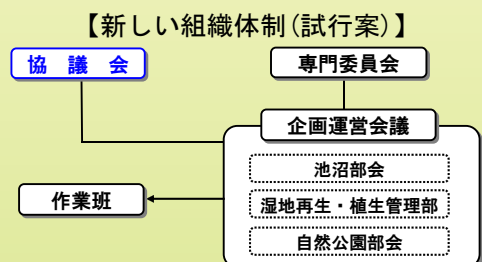
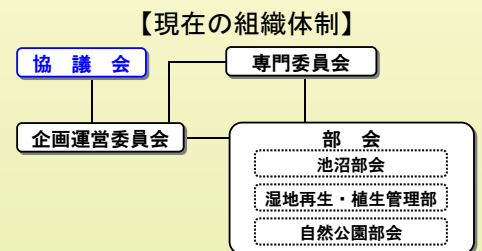
参加者：協議会学識委員、各部会代表、静岡県静岡土木事務所、静岡市

第5回の企画運営委員会では、これまで実施してきた協議会の運営方法に対する課題や活動する上でのルール作りについて話し合いました。

その中でも協議会組織が機能していないという重要な課題に対し、組織体制の見直しなどの改善策の検討をしました。

その結果、平成25年度は、試行的に現在の3部会を1つにまとめた「企画運営会議」を行い、協議会の課題を議論し、対応策を検討していくことで方針が決定しました。

また、この会議では活動の内容、協議会の活性化や自然再生事業対象区域における活動のルールについても検討する予定です。



【麻機遊水地の自然再生に関する活動の支援、参加を募集しております】静岡県静岡土木事務所河川改良課

TEL:054-286-9363 FAX:054-286-9398

URL:<http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/shizuoka/tomogawa/>